

市民との意見交換会・報告書

開催地区：城西地区	開催日時：令和5年5月10日（水） 18時30分 ～ 20時00分
担当班：第5班（出席議員）古川雄一、後藤守江、村澤 智、大山享子、松崎 新	
開催場所：城西コミュニティセンター	
参加人数：男性 9名、女性 1名、合計 10名（うち班外議員 0名）（他自治体等傍聴者 0名）	
<p>会場の雰囲気、次回に向けての反省点、申し送り事項など</p> <p>1. 意見交換の総括</p> <p>(1) 議会報告、市政全般についての総括</p> <p>① 2月定例会議について 意見なし</p> <p>② 所管事務調査報告について 意見なし</p> <p>③ 城西地区のまちづくりに向けた課題について 運転免許証返納による公共交通の問題、町内会の維持が困難な事、学校におけるこどもの相談体制についての課題がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の免許返納については、返納後に利用できる制度について、公共交通のバスの利用方法や返納方法について、具体的に市政だよりでの広報周知を求められている。 ・町内会の維持存続については若い世代との関係性構築についての不安があった。地域内でのICTを活用した関係性構築と同様に顔と顔を付き合わせた関係性の維持が求められていた。 ・子育て支援について、学校における子どもが相談できる体制の強化、家庭での養育への支援が求められている。 </p> <p>(2) 地区別テーマについての総括</p> <p>① 地区別テーマ 子ども子育て支援の在り方について</p> <p>② テーマ設定の理由、背景 国は異次元の少子化対策として、様々な政策を打ち出してきた。会津若松市においても、少子化対策に取り組みはじめたが、子育ての環境が大きく変わってきている現状において、実際に子育て世代や現場の声を聞くことで様々な課題が見えてくると考えたことからテーマとして設定した。</p> <p>③ 主な地域課題 町内会内での若い世代との交流の減少、学校下における子どもや家族への相談体制の充実強化が課題。</p>	

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項
 (含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
	2月定例会議の質疑内容、令和5年度一般会計予算中、少子化人口減少対策、空き家対策、多子世帯利用者負担軽減について報告を行った。また、新庁舎建設にあたり、令和7年度に完成となることも併せて報告し、最後に予算決算委員会各分科会政策研究の取り組み報告概要版を報告した。				
高齢者の運転免許証の返納について、喜多方のようなタクシー利用券の配布といった支援はできないか。	市としての直接的な支援はないが、民間事業者が支援を行っている。商工会議所が行う運転免許証自主返納支援制度などの具体的な事例を紹介。最終的に運転免許証の返納に至った高齢者に対する支援制度の充実については引き続き協議をしていきたい。	○	①		交通
運転免許証の返納について、我々市民はどのように返納手続きを行ったらよいか分かりにくい。市政だよりなどで分かりやすく案内を行ってほしい。また、民間が行う返納支援制度については、図式化して分かりやすくしていただきたい。	高齢者の生きがいづくりでの成功事例を紹介。生きがいだけでなく、移動することでの消費向上も叶う点を取り上げ、議会でも取り上げていくようにしたい。また、運転免許証を返納するための手続きの案内などを分かりやすく、丁寧に行っていくように議会として協議していく。	○	①		交通
バスを利用するにあたって、どの路線に乗ればいいのか分からない。行先がわかるようにバスに表示をして、乗りやすくしていただきたい。	バスに行先や経由先を示していくように議会として協議をしていきたい。今後も利用しやすいように、利用者視点でわかりやすい表示を行っていきけるように提案をしていきたい。具体的にして変えられるようにしていきたい。	○	①		交通
路線バスの路線の変更については、会津バスの自由裁量で決定しているのか。あるいはどこで決定しているのか、教えてほしい。	路線の変更については、東北運輸局で審査が緩やかになっているが、会津若松市地域公共交通会議で話し合いをしている。路線変更について、継続も含めてどういった路線がいいのかを協議し、計画的に変更申請を行えるようにしている。変更については利用者視点で、協議会の合意で行っていくようになる。	○	①		交通

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
町内会加入について、若い世代に引き継いでいきたいが難しい。特に関係性の継続が難しい。良い方法はないか。	町内会の実情と実態把握に努めている。良い手法はないが、丁寧に丁寧に町内会を作り上げていく必要がある。粘り強くやっていく事が大事。市内の事例を基に、どのように人と人とが繋がることができるか。この話し合いが大切ではないか。	○	①		地域社会
町内会加入について、町内会行事も閉塞感の中でいた。役員のなり手もない。町内会の事業の継続ができないため、行事も廃止しているところもある。町内会の廃止も出ているところがある。コロナの影響が大きい。良い方法はないか。	市では、交付金の含めて色々と検討を行っているところである。高齢化や少子化により、組長もできなくなってきている。話し合いをしていくしかない。地域を何とかしたいとPTAでも話し合っている。良い町内会として作り上げていく、頑張っていくしかない。 他の地区でもこども会がなくなってきている。子どもの対話もなくなってきている。若い世代の対話もなくなってきているのではないか。集合住宅では町内会にも加入していないので、つながりもなく、行事にも参加もしていない状況である。	○	①		地域社会
ICTとデジタルで人と人の会話がなくなっている。便利さをとるのか、住みやすさをとるのか。一番大切なものがなくなっていく。これは憂慮すべきことだ。	湊地区での湊チャンネルの利用を見ると、タブレットで子どもの様子などを知ることができている。大戸地区はスマートフォンとテレビを活用して健康体操を行っている。それにより人の交流を維持している。デジタル機器も活用して、会話をしないといけない。 市ではつながりづくりポイント事業を行っている。そのポイントでサービスを受けることができる。事業を通して人と人のつながりつくりにつながり、交流の場の活性化が図られる。地域の活性化に役立てられると考えている。	○	①		地域社会

○ 地区別テーマでの意見交換について → 子ども子育て支援の在り方について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
家庭によっては学校に子育てを依存している状況。子どもを支援する必要がある。そのため、子どもが困ったことを相談できるソーシャルワーカーなどの専門職を常勤職員として学校に配置することはできないか。	現在、スクールサポートティーチャーやスクールサポートスタッフを入れている。その他にも特別教育支援員も34名で対応している。市の予算でも対応できることもある。しかし、なり手がいない状況で課題となっている。	○	①	
学校で配布するアンケートなどを担任の先生が取りまとめたりしている。このような事は学校の先生にさせるようなことはせずに、委託元の部署、例えば市の職員が行うべきではないか。そうしないと先生が本来の役割を果たせない。	給食については今年度から公会計化となり、教育委員会が対応することになった。今までは先生や校長が給食費の徴収などを対応することもあり大変だった。これからは先生が本来の職務を行えるようになる。	○	①	
教育関係のしくみが複雑になっている。こんなにもめんどくさい世の中なら、若い人は子どもをつくらなくなるのが当然だ。いや、つくりたくない。複雑な世の中になっているのが少子化の原因だと考える。	湊地区と大戸地区は地域で子どもたちを育てるようになっている。大戸地区では今年度から小規模特認校となって、地域と学校が一体となっている。小学校単位でまちづくりをやっていく事が大事だと考えている。貴重なご意見として承る。	○	②	
材木町には公園がある。その公園の遊具が壊れて使えない。しかも材木町には子どもがいない。その状況で、遊具の修繕といった公園のアンケートが市からあった。回答は行ったが、公園の遊具の修繕は無駄ではないか。	公園施設長寿命化計画で改修を行っている。予算確保が可能となったので、どのような希望があるかのアンケートを行った。他の地域からも利用が図られるようにしたい。	○	①	
大人が消極的な意見ばかり言っていては、子育ては楽しくはなれない。子育てを肯定的に楽しく、そして子ども達にとって楽しい場所を創ればいい。大人が消極的思考で子育てを言うことは良くない。	地域みんなで子育てをしていく事が大切だと考えている。貴重なご意見として承る。	○	②	